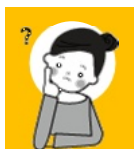




可能性が広がる！

## 中間支援を担うサポートワーカーズを作ろう

今年度方針の中で特筆すべき案件は、運営体制において「事務局機能の継続と共同仕入れの安定化に向けたPJ 答申」(以下「PJ 答申」)の具体化をすすめ、中間支援機能の充実を図るという点だろう。この「PJ 答申」の目的の一つは、生活クラブ生協の経済的支援によって充実させることができた連合会の事務局機能を、支援が切れたあとも後退させることなくさらに発展させることにある。目的の二つ目は、現在暫定的に関係各団体の好意で運営されている共同仕入れ事業(食ワーカーズの食材の受発注配送業務)の安定的な継続である。この目的をどのように達成するのか。新しいワーカーズを創る意味とは?新ワーカーズが担うものとは?イメージをふくらませていこう。



どんなワーカーズ・・・?

ある時は連合会事務局を担い、その中間支援の技術を組織内に蓄積し、ワーカーズ運動の推進役となる。またある時は共同仕入れ業務の受発注と荷さばき、配送も担い、会員ワーカーズを支える。また新たな県内産の食材も発掘し、食ワーカーズに提供し、地産地消を実践し、地域をつなぐ役割を果たす。ある時はワーカーズまつりを企画運営し、内外にワーカーズを知らしめる…。新しく作られるワーカーズは有機的に事業を広げながら「ワーカーズ支援の核になるワーカーズ」です。



なぜ、今必要なの? 継続は・・・?

中間支援を行う連合会が、これからの支援活動をどのように充実させていくか考え、導き出した答えです。連合会としてやるべき事業は、今のままのかたちの連合会ではできません。一つの事業体なら担っていくことができるでしょう。この新ワーカーズは作らなければならないと同時につぶしてはならないということです。今後も連合会事務局の業務は増えることが予測できます。それに伴い限りなく事務局の人件費を上げることもできません。そのために新ワーカーズは共同仕入れなど、事業を拡げ、自立することも使命としているのです。



みんなで作るのね!

その事業は特にワーカーズの支援を目的とすることが多く、会員ワーカーズが利用することでこの新ワーカーズを支えることができるはずです。お互いに支え合うことで経営も成り立たせようとする事業です。「食ワーカーズをもっと元気にしたい」「もっとワーカーズを増やしたい...」そんな思いを持つ人が担い手です。

運営委員会が青写真を描きました。これからは連合会メンバー全員でその実現を進めていきます。

多くの仲間がこのワーカーズを立ち上げましょう。